

平成30年度 第2回 観察会 記録

日 時	平成 30 年 5 月 16 日（水）、及び 5 月 30 日（水）
観察地	近江八幡市～東近江市（西の湖、伊庭内湖）
講 師	藤岡 康弘 元滋賀県水産試験場長、びわ湖の森の生物研究会事務局長
テーマ	ゆりかご水田とホンモロコの産卵観察
備 考	参加者数：5/16 28 名、5/30 27 名 合計 55 名（含、講師、スタッフ） 記録 藤原雄平

はじめに

日帰りの自然観察会として、今年度は5月及び10月に琵琶湖の生き物に関係した観察会を企画しました。琵琶湖は関西に住む私たちにとって大切な水源です。水の源、即ち命の源である琵琶湖について、もっと学び、もっと知りたいと考えました。5月は、湖東地区で、ホンモロコの産卵観察と外来魚の駆除（釣り）をメインとした体験型の観察会を企画しました。参加希望者が多く、同じ内容の観察会を5月16日と30日の2度に分かれて実施しました。

1. JR 近江八幡駅改札口前に現地集合。企画段階から御指導いただいた藤岡康弘先生（元滋賀県水産試験場長）と合流し、駅前広場から彦根観光バス（株）の貸切バスに乗車して、先ずは西の湖に向かって出発。

普段、藤岡先生が観察を続けておられる西の湖畔に到着後、ホンモロコの産卵を観察。観察は湖水の中へ入って行うため、全員が胴長靴を着用。初体験の人がほとんどであり、着用するだけで興奮模様。背丈を遥かに超すヨシの草原を抜けて水辺に着くといよいよ湖の中へ。水中より突き出たヨシの水面辺りを観ると、茎に点々と小さな命の輝きが無数に見えました。ただ、琵琶湖の水位調節のため、水面上となった茎に残された多数の卵もあり、人の生活のために必要な処置とはいえ残念であり、何か工夫ができないのかとの思いにかられました。湖底の土はしっかりしていて、心配した転倒者もなく無事に観察を終えることができました。



2. 当初からの予定の通り、ゆりかご水田の見学は、バスの車中から。人工的に設置された漁道は、今時は水が流れている状態でなく、藤岡先生の説明を聞きながら水が流れ魚が移動している状況を想像した。

昼食は伊庭町の自治会館を借用。地元の湖魚料理店「魚定」のホンモロコやコイを使った仕出し料理を賞味した。「水郷伊庭の漁萬膳」と称し、伊庭の魚を食べる文化を楽しんでいただきたいというコンセプトで提供された料理には、参加者の感想も大変美味と好評でした。

3. 昼食後は、伊庭内湖のカヌーランドへ移動。地元の漁業組合長の伊関さんから昨今の漁業をとりまく厳しい状況についてお話を聞いた後、フナ寿司やコイの刺身などを味見させていただきました。

いよいよ釣りが始まる。目的は外来魚の駆除。全員、餌のエビを針につけて湖水に投入するもしばらく成果なし。そのうちに釣り上げる人がでてきましたが、最終の釣果はブルーギルが30匹ほど。それでも一応、外来魚駆除に貢献することが出来ました。特に5月30日は水温が低く、半数の人が“ボウズ”“だったようですが、皆さん釣りを楽しみました。



4. 1度目の5/16は好天に恵まれました。2度目の5/30は生憎雨の一日となりましたが、雨に負けず皆さん充分楽しんでいただけたようでした。2度共、無事故で、帰路の予定時間にも遅れることなく順調に終了することが出来ました。参加者の感想も好評でした。

以上